

2024年10月期 決算説明会

2024/12/20

本日のアジェンダ

I. 新体制の方針 3
II. 事業環境 6
III. 2024年10月期 実績 10
IV. 2025年10月期 業績予想 19
V. アクシブの見通し 26
VI. 中期経営計画の進捗状況 33
VII. 質疑応答	

本日のアジェンダ

I. 新体制の方針 3
II. 事業環境 6
III. 2024年10月期 実績 10
IV. 2025年10月期 業績予想 19
V. アクシブの見通し 26
VI. 中期経営計画の進捗状況 33
VII. 質疑応答	

新体制の方針

前体制で築いたクミアイ化学の基盤

- ✓ 2023年度連結売上・利益は 過去最高を記録
- ✓ サステナビリティ経営へシフト
- ✓ 100年企業に向けた取り組みを開始（事業領域、研究領域の拡大）

さらなる企業価値向上に向けて

新体制における3つの方針

- 強靱な企業体質への変革
- サステナビリティ経営の推進による企業価値の向上
- 全てのステークホルダーの幸せの追求

新体制の方針

1. 強靱な企業体質への変革

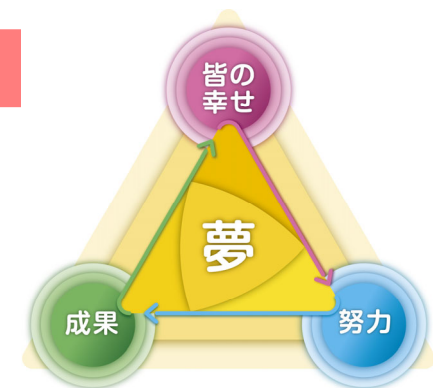
- 意識・組織改革による**収益力の強化**
- 顧客のニーズ・ウォンツを先取りした製品・技術開発による**新たな価値の創出**
- 人財戦略ビジョンの実現と**人財育成**
- **DXの推進**/ デジタル化の実践

2. サステナビリティ経営の推進による企業価値の向上

- サステナビリティ経営を推進し、グループの**社会的価値の向上**に注力
- **脱炭素社会**の実現、**循環経済**への移行に向けた取り組みを継続
- **ダイバーシティ&インクルージョン**、**ワークライフバランス**と**健康経営**を推進すべく、KPIを設定

3. 全てのステークホルダーの幸せの追求

- 現中計のスローガンとして「**夢**」と「**幸せの三角形**」を設定し、すべてのステークホルダーの幸せを追求
- 業績や目標達成だけではなく、**社会貢献**や**持続可能な社会の実現**なども含めた成果を目指す



本日のアジェンダ

I. 新体制の方針	3
II. 事業環境	6
III. 2024年10月期 実績	10
IV. 2025年10月期 業績予想	19
V. アクシブの見通し	26
VI. 中期経営計画の進捗状況	33
VII. 質疑応答		

事業環境動向

ロシア・ウクライナ戦争の長期化、緊迫続く中東情勢

- 直接的な取引は少ないものの、依然として原材料費や製造コスト、物流コストの上昇要因。

原油・ナフサ価格

- WTI原油先物価格は、中東情勢の緊迫化により急騰する局面もあったが、ドルベースでは70ドル台を中心に推移し、2023年度と比較しボラティリティはやや小さかった。
- 国産ナフサ価格は、円安の一服を反映した下落局面もあったものの、2024年度は7万円/KL超で高止まり。

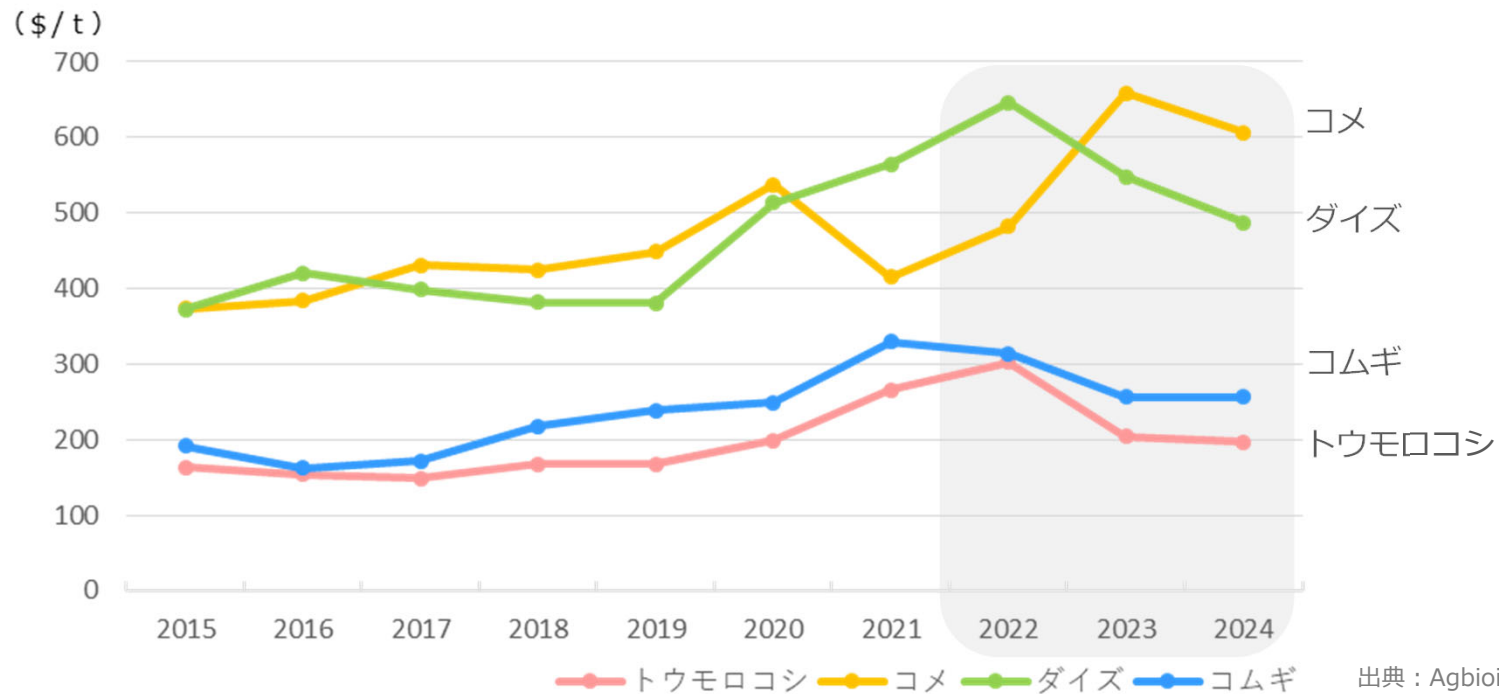
対ドル為替動向

- 前期140円 → 当期151円（平均レート）

事業環境動向

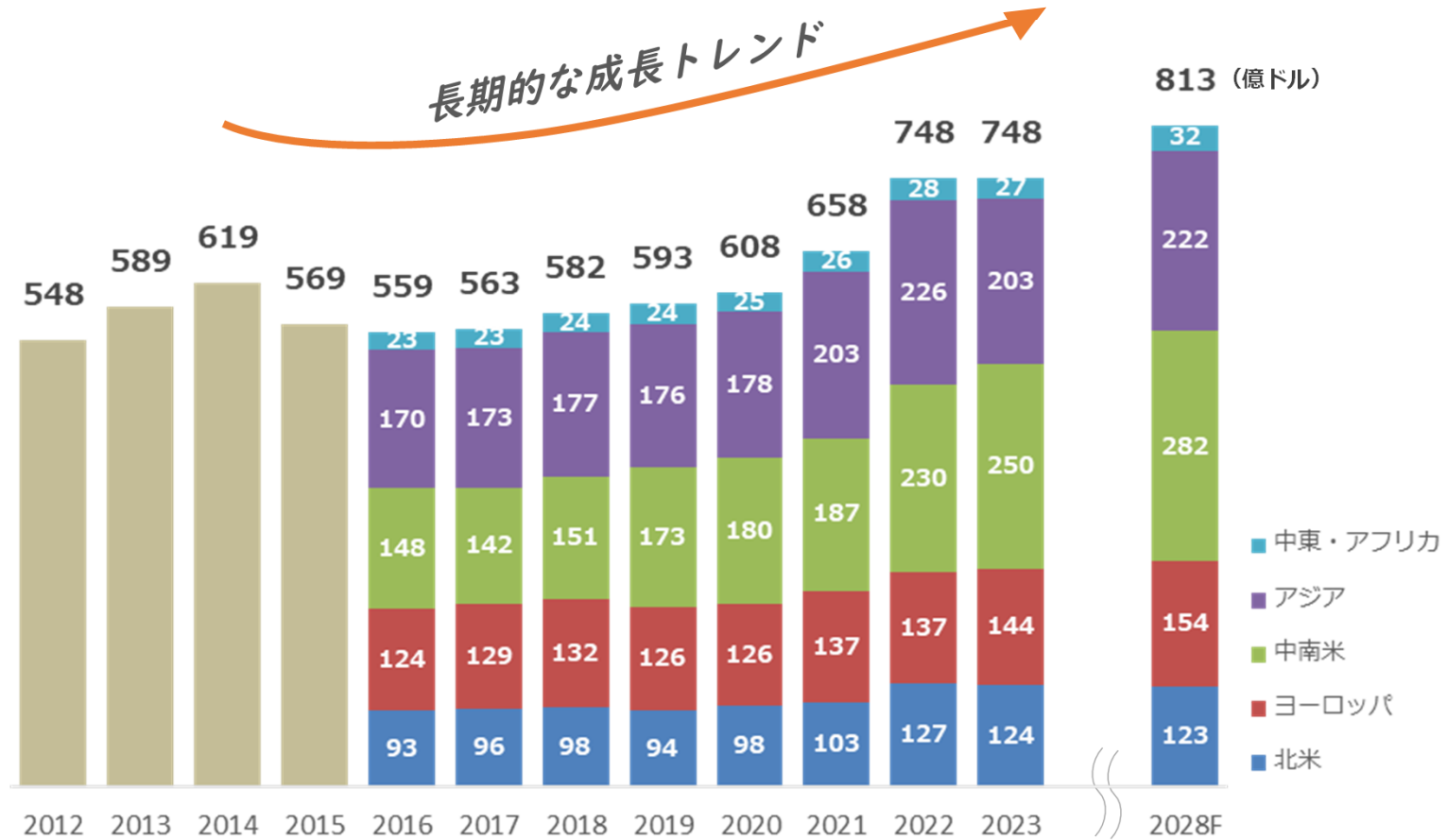
穀物市況

- 主要穀物（ダイズ、コムギ、トウモロコシ）は下落基調が継続
 - 2020年後半から中国の輸入需要の増加や異常気象により上昇
 - 2022年ロシアのウクライナ侵攻により、穀物価格が高騰
 - 高騰した穀物価格はブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下



農薬市場の動向

- 流通在庫水準が適正化することで 再び成長基調に転じると予想
- 国内は3,500億円前後で横ばい



出典 : Agbioinvestor (世界市場)、クロップライフジャパン (国内市場)

本日のアジェンダ

I. 新体制の方針	3
II. 事業環境	6
III. 2024年10月期 実績	10
IV. 2025年10月期 業績予想	19
V. アクシブの見通し	26
VI. 中期経営計画の進捗状況	33
VII. 質疑応答		

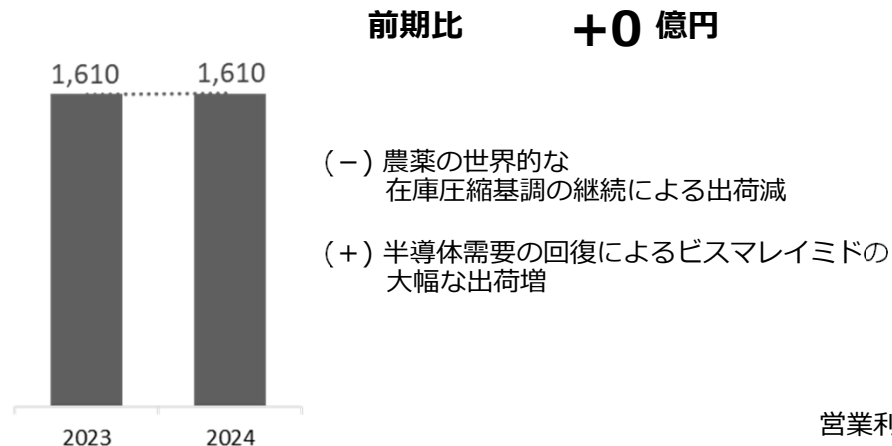
2024年10月期 実績

(単位：億円)

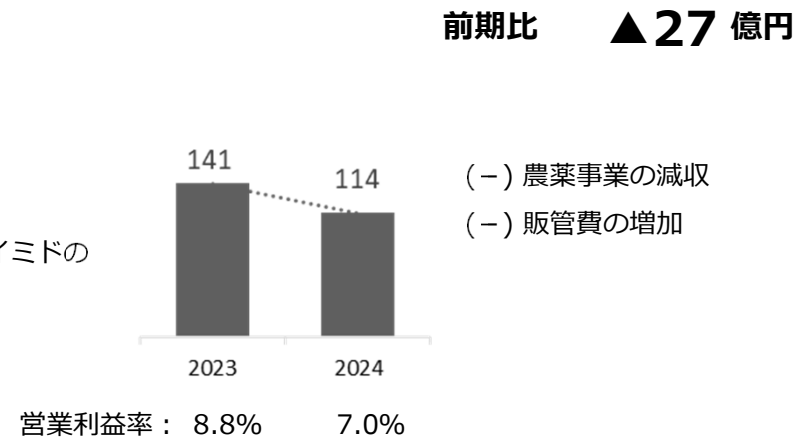
	2023 実績	2024 実績	前期比	増減率
売上高	1,610	1,610	+0	+0%
売上総利益	367	354	▲13	▲3%
営業利益	141	114	▲27	▲19%
経常利益	241	183	▲58	▲24%
親会社株主に帰属する当期純利益	180	136	▲44	▲25%

参考：平均レート ¥/ドル=140 ¥/ドル=151

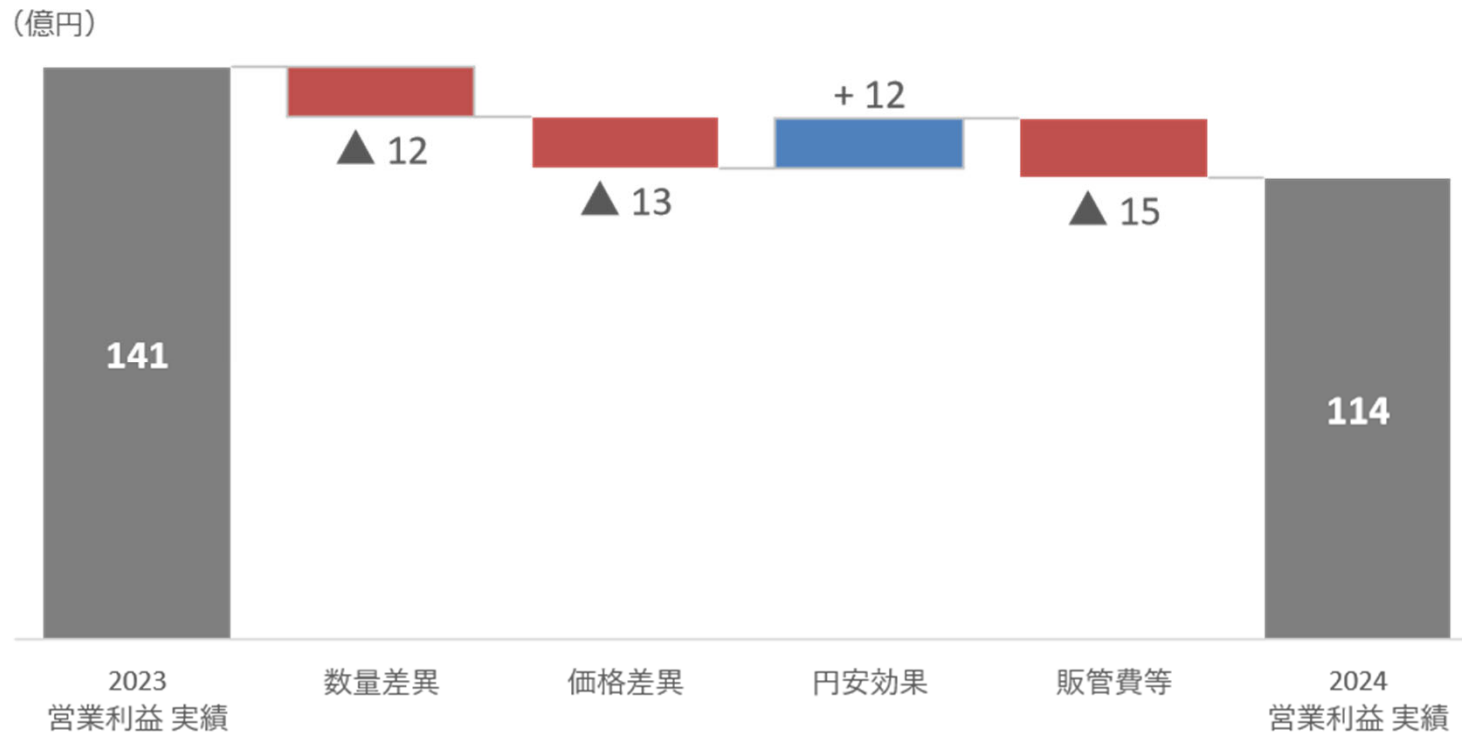
売上高



営業利益



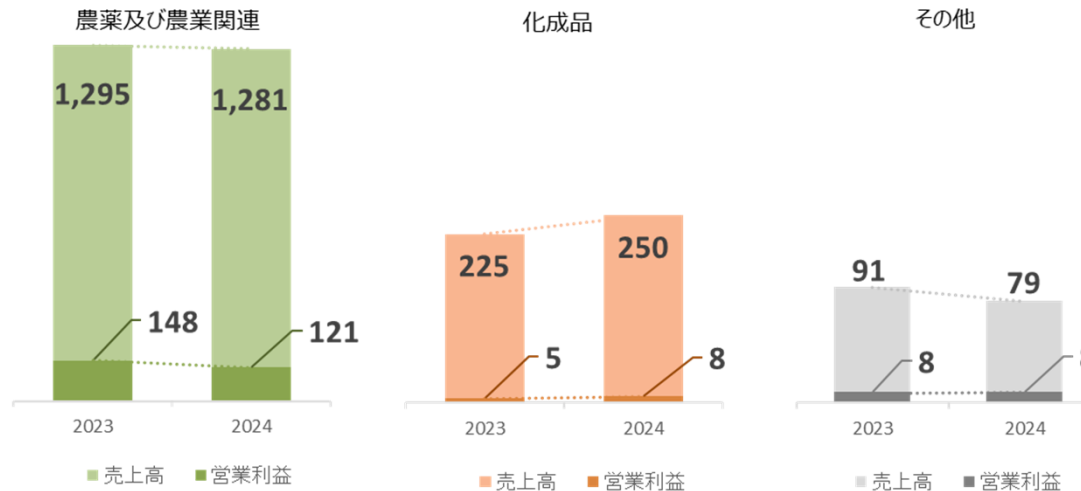
営業減益の要因



2024年10月期 実績 (セグメント別)

(単位：億円)

	2023 実績	2024 実績	前期比	増減率
売上高	1,610	1,610	+0	+0%
農薬及び農業関連	1,295	1,281	▲13	▲1%
化成品	225	250	+25	+11%
その他	91	79	▲11	▲12%
営業利益	141	114	▲27	▲19%
農薬及び農業関連	148	121	▲27	▲18%
化成品	5	8	+2	+46%
その他	8	8	+0	+0%
(調整額)	▲21	▲24	▲3	-



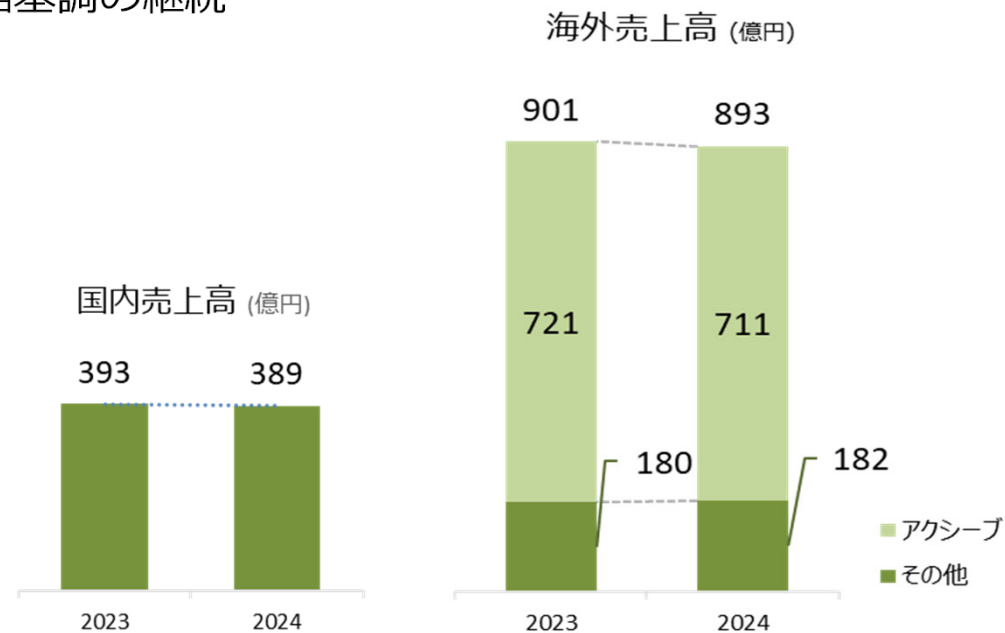
農薬及び農業関連事業

国内

- 水稲用除草剤「エフィーダ」が順調（水稲一発処理除草剤4年連続No.1）
- 水稲用殺菌剤「ディザルタ」を含む、箱処理剤も順調
- 一部製品の終売を見越した販売先の在庫圧縮

海外

- 世界的な在庫圧縮基調の継続



化成品事業

塩素化

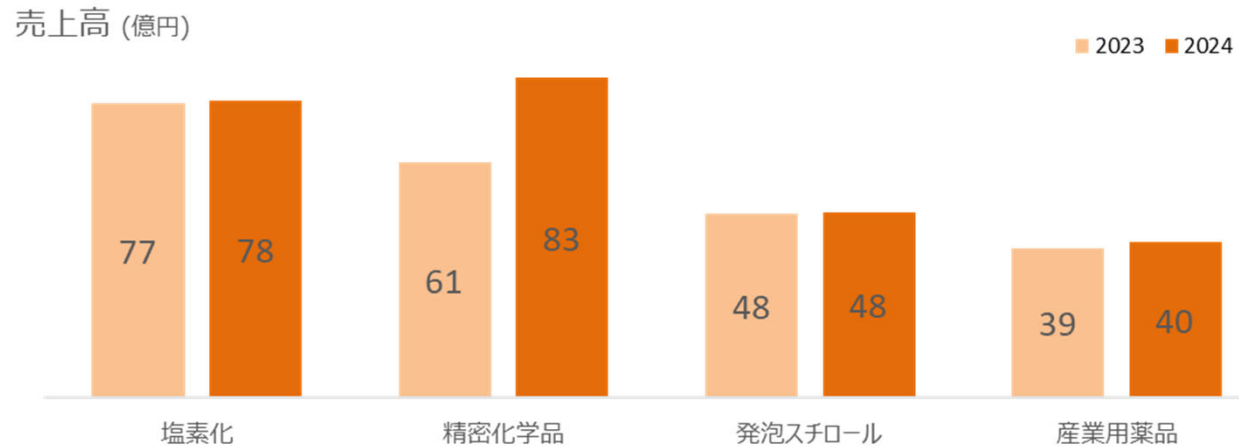
- 前年並みで推移

精密化学品

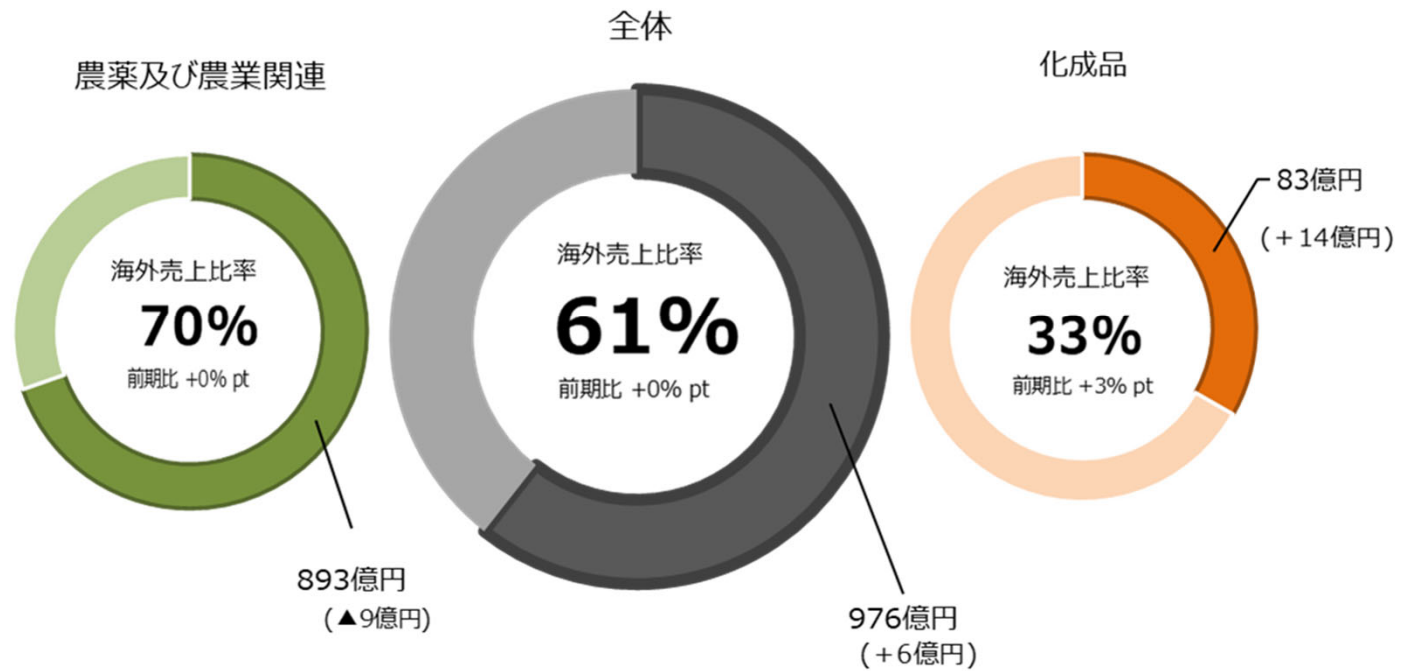
- 半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷が大きく増加

発泡スチロール・産業用薬品

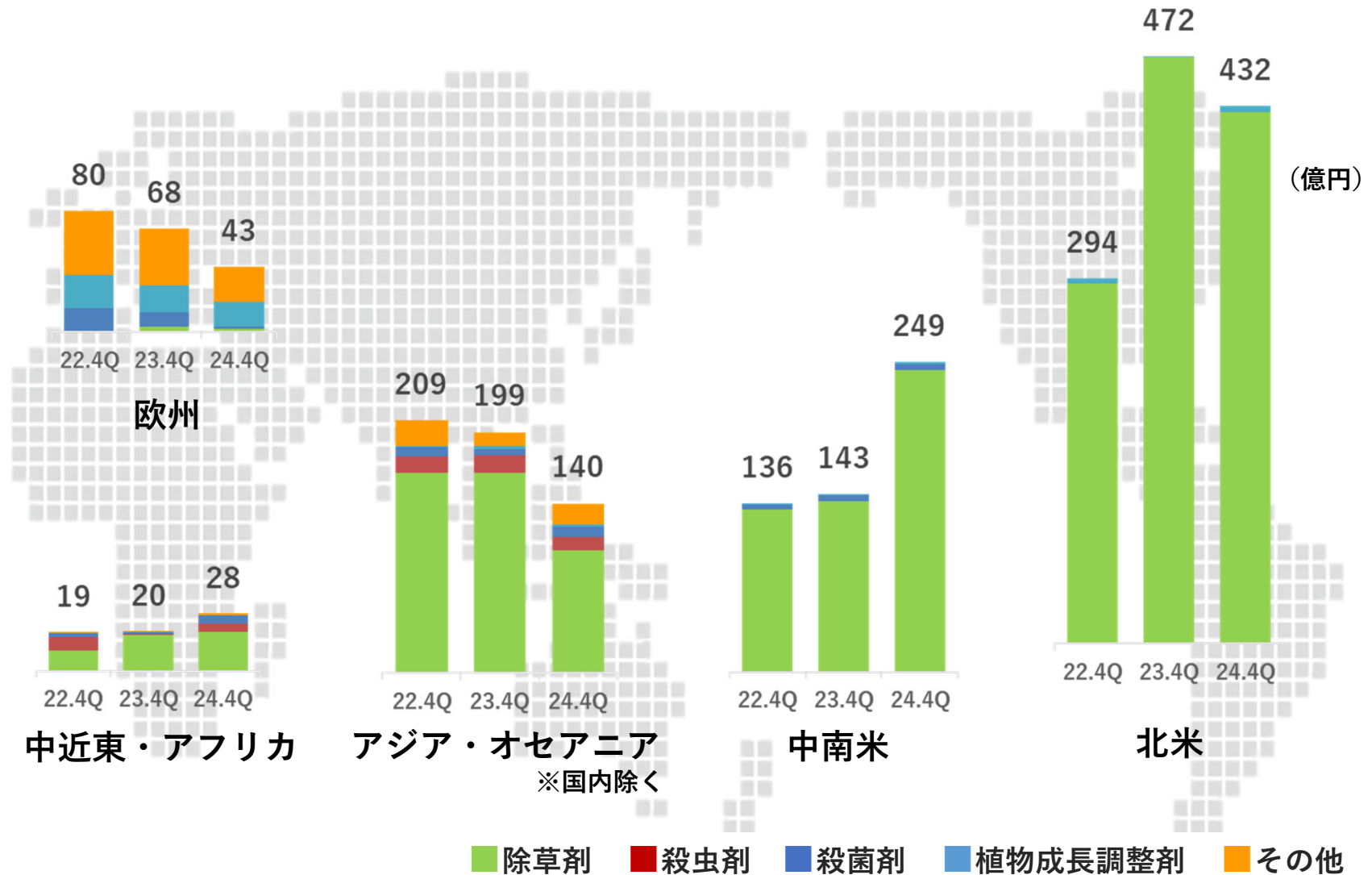
- 前年並みで推移



2024年10月期 実績 (海外売上高比率)



地域別・用途別 売上高（農薬及び農業関連事業）



2024年10月期 実績 総括

事業全体

売上高 **1,610** 億円 (前期比 +0億円)
 営業利益 **114** 億円 (前期比 ▲27億円)
 経常利益 **183** 億円 (前期比 ▲58億円)

- ・ アクシーブの減収
- ・ 化成品事業の増収
- ・ 販管費の増加
- ・ 持分法による投資利益減に加え、為替差益減により減益幅拡大

農薬及び農業関連事業

売上高 **1,281** 億円 (前期比 ▲13億円)
 営業利益 **121** 億円 (前期比 ▲27億円)

- ・ 世界的な在庫圧縮基調の継続による出荷減

化成品事業

売上高 **250** 億円 (前期比 +25億円)
 営業利益 **8** 億円 (前期比 +2億円)

- ・ 半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷が大きく増加

その他事業

売上高 **79** 億円 (前期比 ▲11億円)
 営業利益 **8** 億円 (前期比 +0億円)

- ・ 印刷事業、物流事業が堅調に推移
- ・ 建設業の繰越工事高が前期に比べ減少
- ・ 建設業における収益性の高い大型工事の出来高の計上による増益

本日のアジェンダ

I. 新体制の方針	3
II. 事業環境	6
III. 2024年10月期 実績	10
IV. 2025年10月期 業績予想	19
V. アクシブの見通し	26
VI. 中期経営計画の進捗状況	33
VII. 質疑応答		

2025年10月期 業績予想（前期比）

(単位：億円)

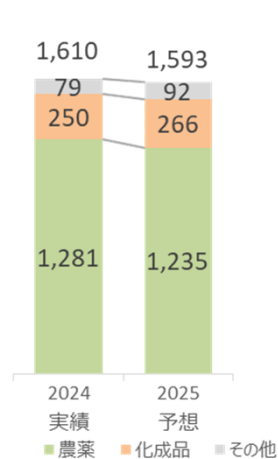
	2024 実績	2025 予想	前期比	増減率
売上高	1,610	1,593	▲17	▲1%
農薬及び農業関連	1,281	1,235	▲46	▲4%
化成品	250	266	+16	+7%
その他	79	92	+13	+16%
営業利益	114	104	▲10	▲8%
経常利益	183	145	▲38	▲21%
親会社株主に帰属する当期純利益	136	109	▲27	▲20%

参考：平均レート

¥/ドル=151

¥/ドル=150

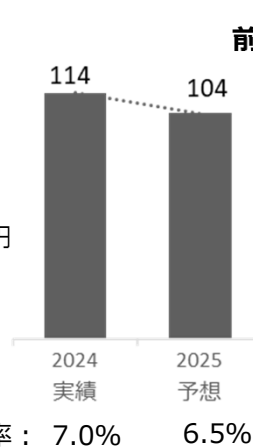
売上高



前期比 ▲17 億円

- (+) 化成品の出荷増+16億円
- (-) アクシーブの出荷減▲50億円

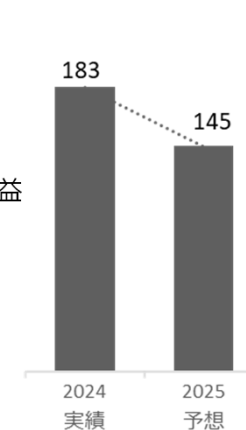
営業利益



前期比 ▲10 億円

- (-) 減収に伴う営業減益

経常利益



前期比 ▲38 億円

- (-) 持分法投資利益▲23億円

2025年10月期 見通し（農薬及び農業関連）

アクシーブ（除草剤）

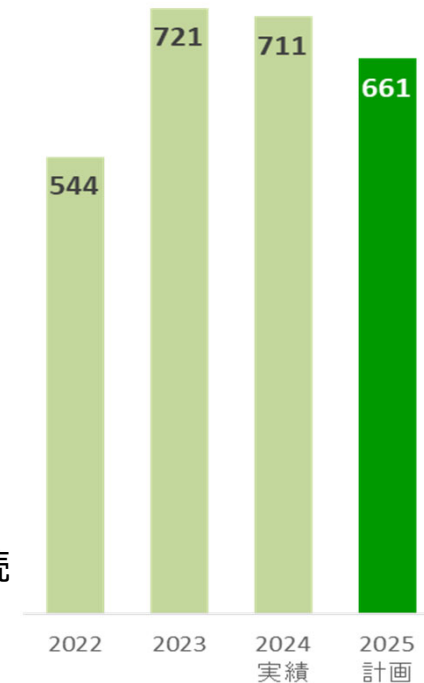
2024年度までの背景

- 除草剤抵抗性雑草への高い効果による需要好調
- 穀物価格が2022年まで高騰、その後下落基調
- 円安効果
- 2024年度は世界的な在庫圧縮の影響で若干の減収

2025年度は 売上高661億円

- アメリカでは増収（+30億円）
除草剤抵抗性雑草の発生拡大等を背景に需要は好調
- オーストラリアでは減収（▲9億円）
ジェネリック品参入の影響により減収計画
- アルゼンチンでは減収（▲37億円）
競合剤の低価格化やジェネリック品参入による値下げ圧力の継続
- ブラジルでは減収（▲30億円）
穀物価格の低迷による農家の投資意欲減退

アクシーブ売上高(億円)



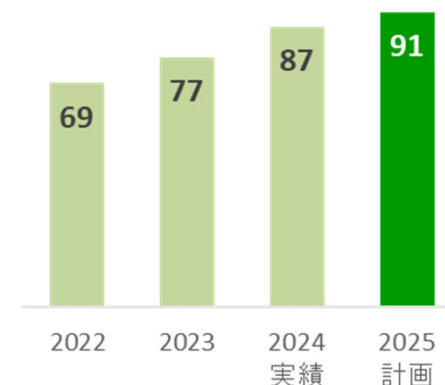
2025年10月期 見通し（農薬及び農業関連）

エフィーダ（除草剤）

2025年度は 売上高91億円

- 安定した効果とイネへの高い安全性が評価され販売好調
- 昨年度に引き続き、国内で新規混合剤 2 剤を上市予定
- 既に販売を開始している韓国に加え、欧州にてコムギ・水稲用除草剤として登録推進

エフィーダ売上高(億円)

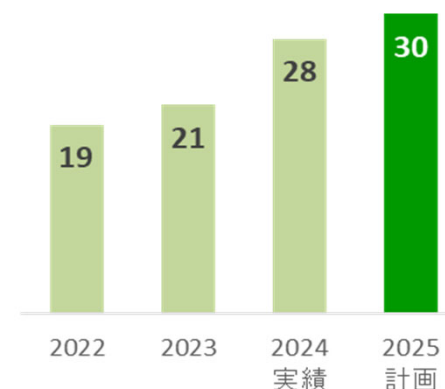


ディザルタ（殺菌剤）

2025年度は 売上高30億円

- 効果の安定性が好評価、順調な販売が続く
- 昨年度に引き続き、国内で新製品 2 剤を上市予定
- 既に販売している韓国に加え、今後も海外開発を推進

ディザルタ売上高(億円)



2025年10月期 見通し（化成品）

塩素化

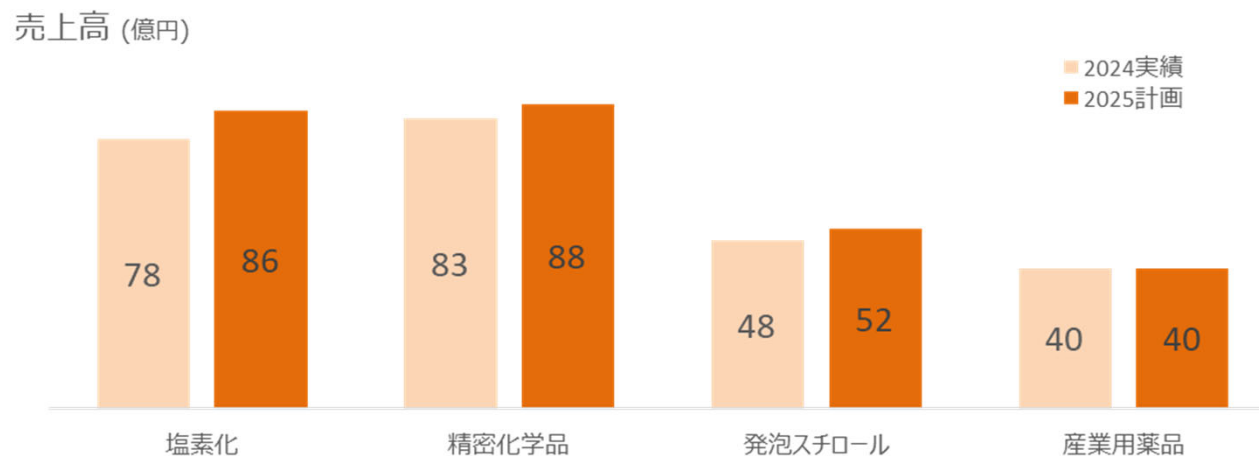
- 一部のクロロキシレン系製品の出荷増により増収を計画

精密化学品

- 半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷増

発泡スチロール・産業用薬品

- 前期並み

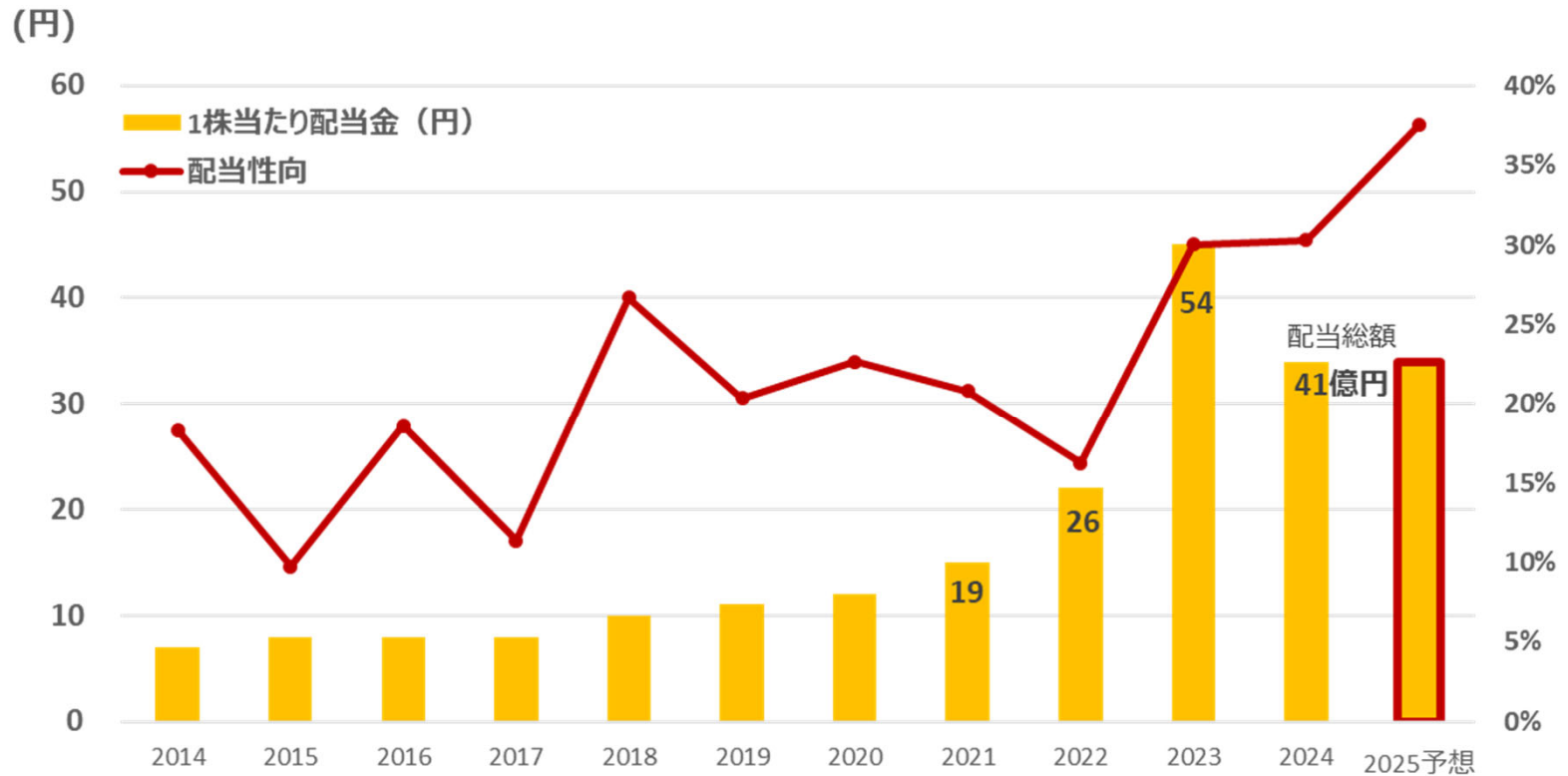


株主還元施策

配当性向30%以上を目標

2025年度 配当予想

中間配当10円+期末配当24円=年間配当34円 (配当性向 37.5%)



研究開発費・設備投資・減価償却費

研究開発費

2024年度実績 **70**億円 → 2025年度計画 **71**億円
(主な内容) 海外開発への取り組み強化、最先端技術の活用による研究推進

設備投資

2024年度実績 **99**億円 → 2025年度計画 **85**億円
(主な内容) 新プラント建設、生産設備・研究施設の更新

減価償却費

2024年度実績 **53**億円 → 2025年度計画 **52**億円

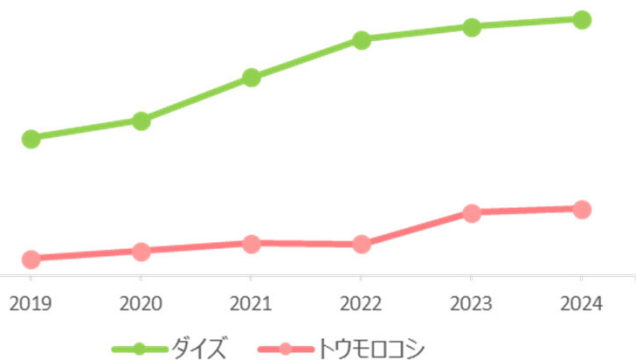
本日のアジェンダ

I. 新体制の方針	3
II. 事業環境	6
III. 2024年10月期 実績	10
IV. 2025年10月期 業績予想	19
V. アクシブの見通し	26
VI. 中期経営計画の進捗状況	33
VII. 質疑応答		

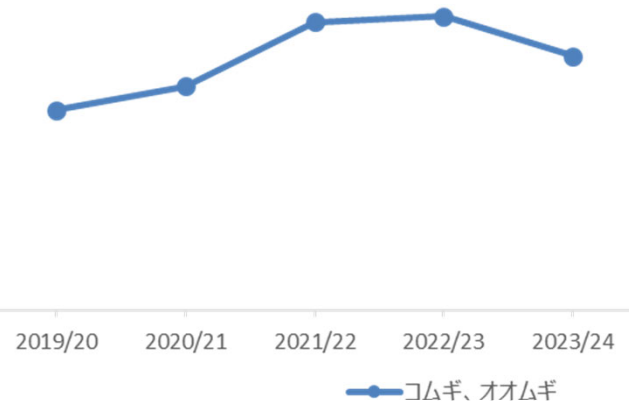
アクシーブの見通し - アクシーブ使用面積の推移(当社調べ) -



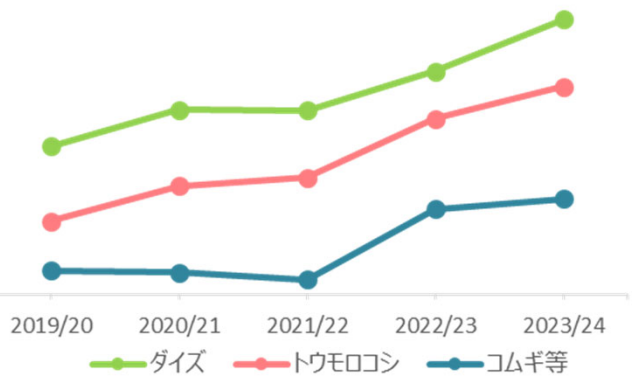
アメリカ



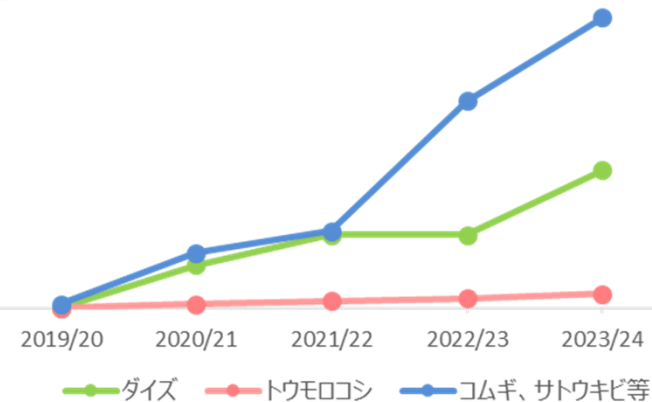
オーストラリア



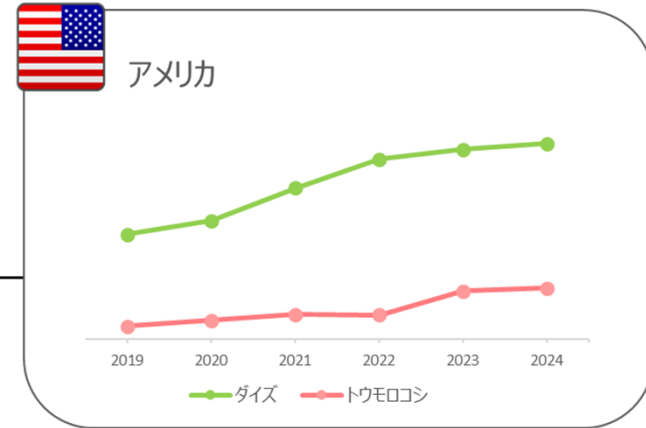
アルゼンチン



ブラジル



アクシーブの見通し



(アクシーブ使用面積からみる末端需要)

除草剤抵抗性雑草の発生拡大やオーバーラッピング処理の普及拡大を背景に、需要は好調。成長は鈍化するものの、今後も需要拡大を見込む。

2024年度 (売上高実績 420億円)

- 世界的な農薬の在庫調整の影響が継続。
- 競合剤の低価格化の動きが顕著。

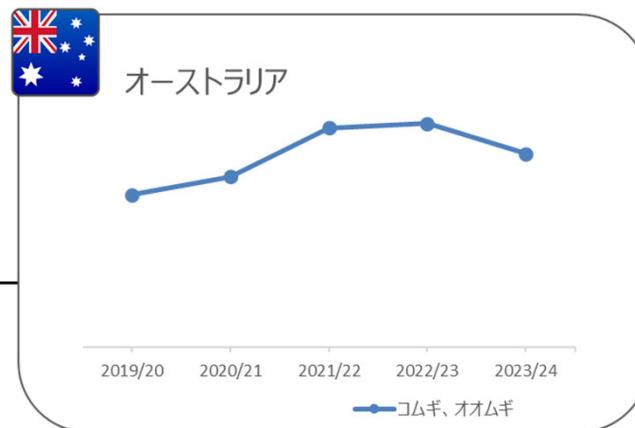
2025年度 (売上高計画 450億円)

- 需要拡大による出荷増を見込んでいるが、米金利高止まりによる一層の在庫圧縮を懸念。また、競合剤の低価格化に加え、データ保護期間満了後 (2026年シーズン) のジェネリック品参入を見越した販社からの値下げ圧力が高まっている。

アクシーブの見通し



オーストラリア



(アクシーブ使用面積からみる末端需要)

2021/22年シーズンより、ジェネリック品がすでに市場参入しており、アクシーブ使用面積は、直近シーズンではやや減少した。

2024年度 (売上高実績 32億円)

- ジェネリック品の本格参入や当社特許侵害品の流通により、約40%の市場シェアを奪われた。一方、市場規模は約1.3倍に拡大した。

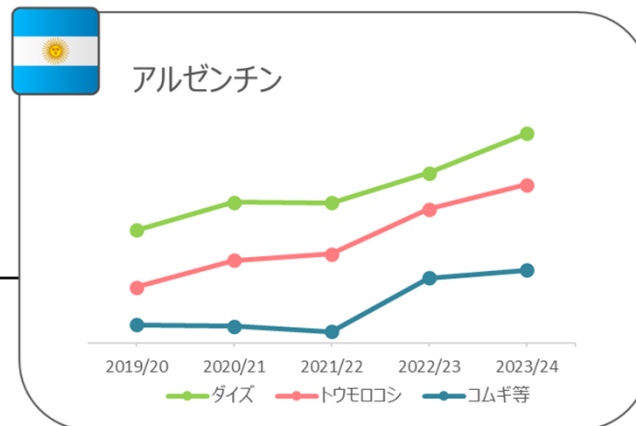
2025年度 (売上高計画 23億円)

- 2024年度を下回る計画ではあるが、当社の知財に基づく特許侵害品への法対応が、オリジナル品の販売を回復させていくものと想定。

アクシーブの見通し



アルゼンチン



(アクシーブ使用面積からみる末端需要)

ダイズ、トウモロコシ、コムギ等いずれの作物用途においてもアクシーブ使用面積は順調に伸長。

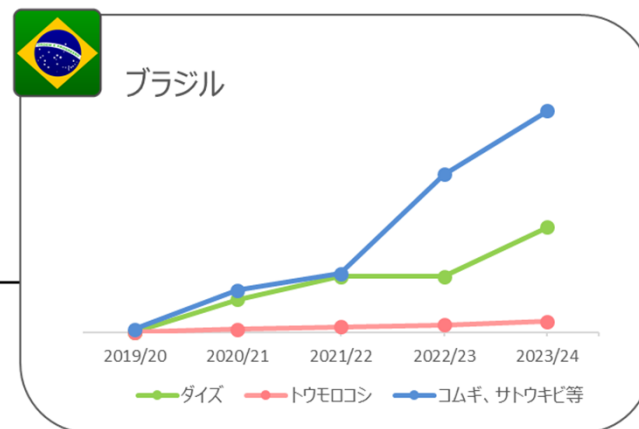
2024年度 (売上高実績 139億円)

- ジェネリック品の参入を確認。
- 土壌処理剤全般の低価格化が顕著。
- 輸入規制緩和により大幅な出荷増。

2025年度 (売上高計画 102億円)

- 複数のジェネリック品の市場参入が予想されるが、直接的な影響は限定的と想定。
- 競合剤の低価格化に加え、ジェネリック品の参入により値下げ圧力が続く想定。

アクシーブの見通し



(アクシーブ使用面積からみる末端需要)

トウモロコシ用のアクシーブ使用面積は伸び悩んでいるものの、ダイズ、コムギ、サトウキビ用の使用面積が急速に拡大。成長余地は十分あると推測。

2024年度 (売上高実績 92億円)

- 穀物価格の下落基調継続により農家の投資意欲の減退が顕著に。ただしイハラブラスとの連携により販売増。

2025年度 (売上高計画 62億円)

- ジェネリックの市場参入は2030年頃と予想するが、農家の投資意欲の減退等による農業資材への値下げ圧力が高まっている。ジェネリック品の市場参入までにシェア最大化を目指す。

アクシーブの見通し - 特許侵害品対策 -

アクシーブ特許侵害品 に対する法的措置

2024/4/30	(豪州)	①ADAMA Australia Pty Ltd. に対し、特許権侵害で提訴
2024/7/12	(豪州)	②Kenso Corporation (M) Sdn. Bhd. およびその関連会社に対し、特許権侵害で提訴
2024/7/19	(豪州)	ADAMA Australia Pty Ltd. との勝訴的和解
2024/7/23	(中国)	中国における当社保有の特許権に対する無効審判請求に対し、中国国家知識産権局 (CNIPA) より同特許権が有効であるとの決定
2024/7/29	(中国)	③安徽久易农业股份有限公司 およびその子会社に対し、特許権侵害で提訴
2024/10/2	(中国)	④杭州金尔太化工有限公司 に対し、特許権侵害で提訴
2024/10/2	(中国)	⑤鹤壁市宝瑞德化工有限公司 に対し、特許権侵害で提訴
2024/11/11	(中国)	中国での特許紛争で勝訴的和解
2024/11/15	(豪州)	⑥Crop Smart Pty Ltd. に対し、特許権侵害で提訴
2024/11/15	(豪州)	⑦Conquest Crop Protection Pty Ltd. に対し、特許権侵害で提訴
2024/11/15	(豪州)	⑧4 Farmers Australia Pty Ltd. に対し、特許権侵害で提訴
2024/12/17	(中国)	⑨江苏省农用激素工程技术研究中心有限公司 に対し、特許権侵害で提訴

本日のアジェンダ

I. 新体制の方針	3
II. 事業環境	6
III. 2024年10月期 実績	10
IV. 2025年10月期 業績予想	19
V. アクシブの見通し	26
VI. 中期経営計画の進捗状況	33
VII. 質疑応答		

中期経営計画(2024-2026年度) / 初年度の取り組み

事業領域の拡大と新規事業の推進

- 子会社化したAAI社を介したアジア・アフリカ地域へ販路拡大
更なる拡大に向けたビジネススキームを検討
- 子会社化したアグリテック企業GRA社とのシナジーの具体化に向けた
取り組みを推進
- 農業関連異業種メーカー(農機、施設設備、ドローン等)との協業による
事業領域拡大に向けた協議を推進

中期経営計画(2024-2026年度) / 初年度の取り組み

研究開発力の強化

- 研究活動の**インフラ整備**として、2023年10月に**化学研究所 (ShIP)** 稼働。現在、**生物科学研究所**の整備計画が進行中であり、中心となる新研究棟を2027年に建設する計画。化学研究所と生物科学研究所を両輪として、新農薬創製・製品開発のスピードアップと研究領域の拡大を目指す。
- 社外研究機関との連携を積極的に展開し、独自の**AI創薬手法**の確立に向けた取り組みを推進。新農薬開発のスピードアップにつながる基盤技術を整備。

中期経営計画(2024-2026年度) / 初年度の取り組み

気候変動・環境負荷の低減

- CO₂フリー電力導入等により**GHG排出量30%削減**が視野に。
- 水田中干延長による**J-クレジット**活用開始

— 創業100年の2048年度までにカーボンニュートラルを実現 —

- 環境省の**30by30アライアンス**に参加
- **ビオトープ**の造成着工

- 保有する北海道福島町の森林の**間伐材を有効活用**し、パレット1200枚生産・使用開始

中期経営計画(2024-2026年度) / 初年度の取り組み

人財の育成／人的資本の考え方をベースにした人財戦略

- 人事評価・報酬制度の改革に着手

コーポレートガバナンスの高度化

- 人権デュー・デリジェンスや国連グローバルコンパクトへの参加などを通じ、人権尊重に関する取り組みを推進
- ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進に向け、ワーキンググループを発足。誰もが働きやすい会社を目指して、現状の課題と目指す姿を取りまとめた

DXの推進／デジタル化の実践

- 独自のAI創薬手法の確立に向けた取り組みを推進
- 生産工場のオートメーション化を推進
- 社内ペーパーレス化を促進

中期経営計画(2024-2026年度) / 新剤・新技術の開発状況

■ フルペンチオフェノックス (バネンタ®) の標的部位を解明

(Journal of Agricultural and Food Chemistry 誌に掲載)

ミトコンドリアのエネルギー代謝における脂肪酸代謝経路 (β酸化経路) を阻害

- ➔ 従来の農薬にない新規の作用機序を有する殺ダニ剤
- ➔ 既存農薬に対し抵抗性を持ったダニに対しても効果を示す

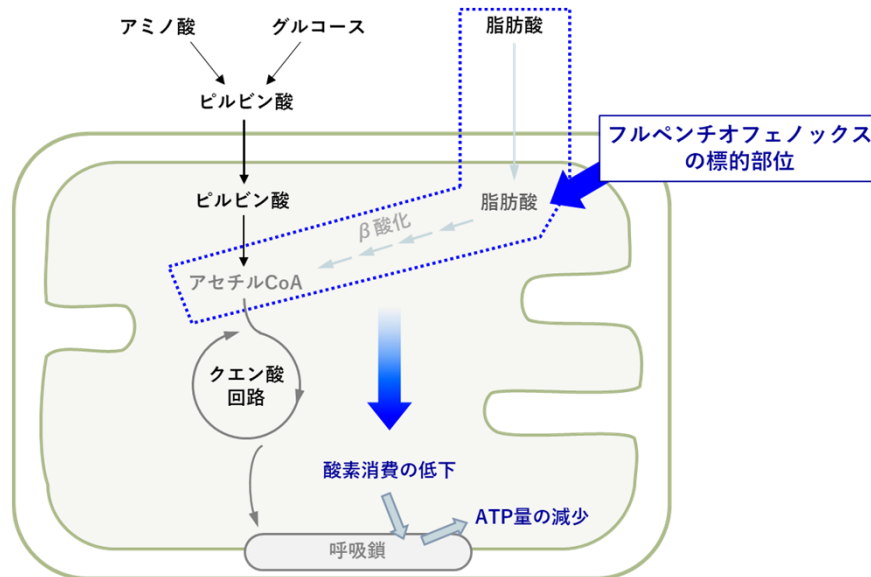


図1 有酸素性エネルギー代謝系におけるフルペンチオフェノックスの標的的部位

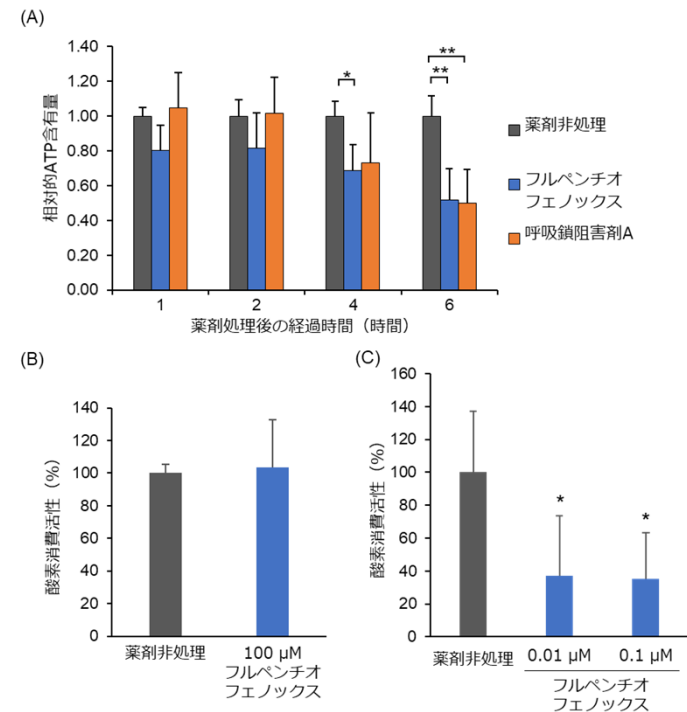


図2 フルペンチオフェノックスの作用
 (A) ハダニ体内ATP含有量に対する作用
 (B) ピルビン酸添加の際の酸素消費に対する阻害作用
 (C) 長鎖脂肪酸添加の際の酸素消費に対する阻害作用

中期経営計画(2024-2026年度) / 新剤・新技術の開発状況

新剤の開発

- **フルペンチオフェノックス（殺虫剤）**
抵抗性が発達しているダニに対しても効果を有する新規作用性の殺ダニ剤として開発中。2023年5月に登録申請済み。
- **エコアーク（微生物農薬）**
難防除病害であるブドウ根頭がん腫病に効果を示す世界で唯一の農薬として開発中。2022年12月に登録申請済み。

新技術の開発

- **微生物を活用したバイオスティミュラントの開発**
- **農地から発生するメタンガスの発生抑制技術（国際特許出願済み）**
メタン生成阻害剤を発見 → 実用化に向けた検討を推進中

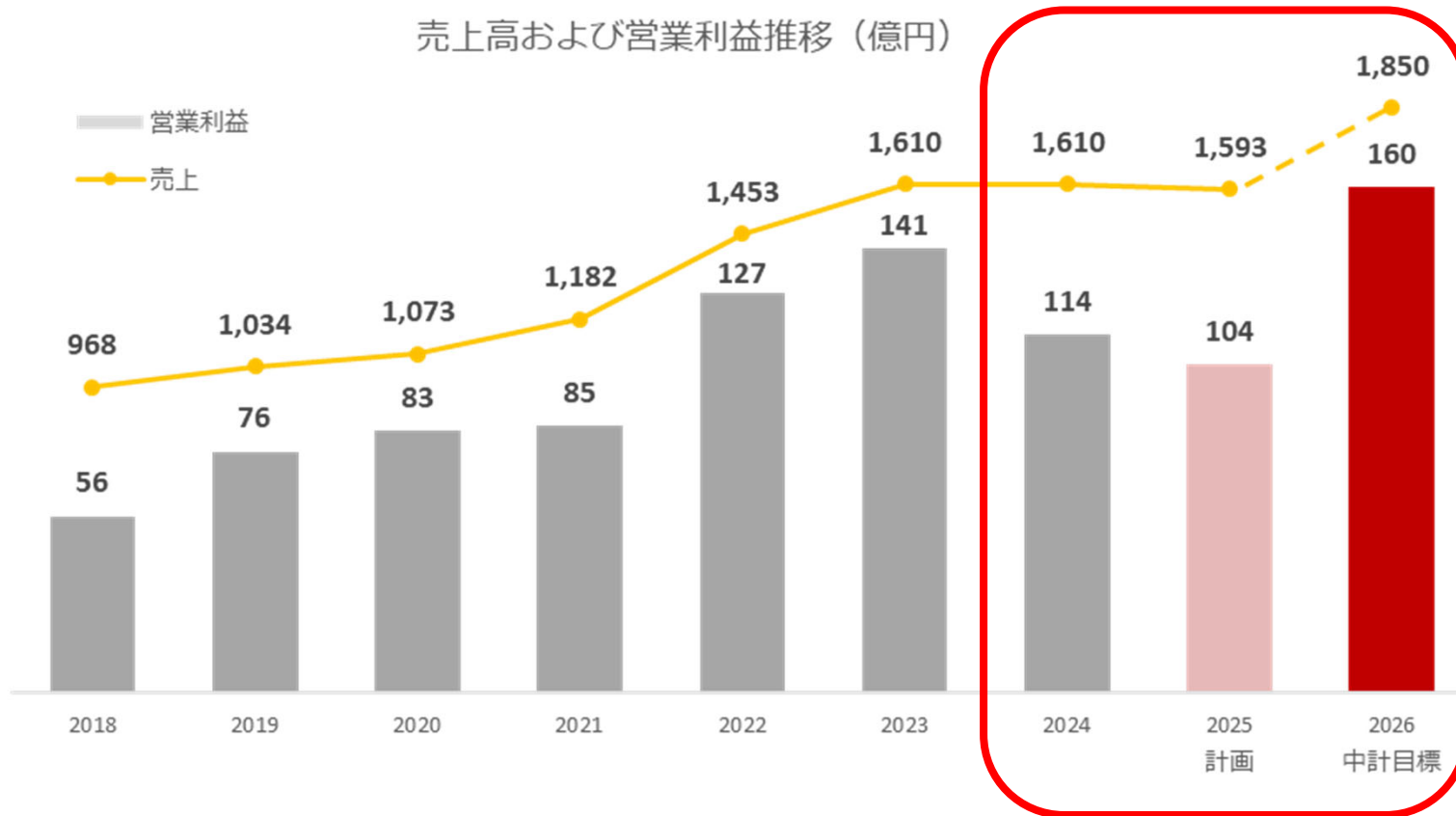
既存剤の最大化

- **エフィーダ（除草剤）**
ヨーロッパにおいて水稲・コムギ向けの除草剤として開発中。
その他地域への展開や、対象作物の拡大にも精力的に取り組んでおり、
アクシーブに次ぐ、今後の当社の収益を支える剤へ成長させる。

新剤・新技術の開発状況

名前	分野	実用性評価段階	開発段階	上市 地域・作物拡大
殺虫剤				
フルペンチオフェノックス (バネンタ®)	殺ダニ剤		●	
殺虫剤A	水稲用殺虫剤		●	
殺虫剤B	水稲・園芸用殺虫剤	●		
殺菌剤				
殺菌剤A	水稲用殺菌剤		●	
殺菌剤B	果樹・野菜用殺菌剤	●		
殺菌剤C	畑作用殺菌剤	●		
除草剤				
エフィーダ®	ムギ用除草剤			●
除草剤A	畑作用除草剤	●		
微生物農薬・バイオスティミュラント				
<i>Rhizobium vitis</i> ARK-1株 (エコアーク®)	根頭がんしゅ病防除剤		●	
微生物農薬A	果樹・野菜用防除剤	●		
微生物B	バイオスティミュラント	●		
資材C	バイオスティミュラント	●		

中期経営計画(2024-2026年度) / 2026年度業績目標



中期経営計画(2024-2026年度)

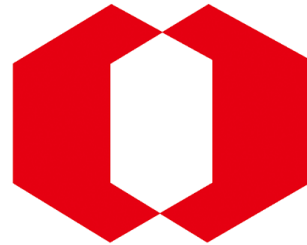
中計策定時の想定を上回るアクシブ事業をとりまく環境の変化 → 目標達成に“向かい風”

- ・ コロナ禍に起因する世界的な農薬の在庫調整の長期化
 - ➔ 当社棚卸資産の増加
 - ➔ 海外の競合メーカーやディストリビューターが在庫一掃のために大幅値下げ
- ・ ジェネリック参入を見越した値下げ圧力の増大
- ・ 穀物価格の低迷による農家の投資意欲減退

- ・ 特許権侵害品に対する法対応
- ・ 各市場に最適なマーケティング戦略の遂行
- ・ 新規混合剤開発による高付加価値化
- ・ サプライチェーンのパートナー会社との連携による在庫水準の適正化等により、財務健全性は向上

中計目標：売上高1,850億円/営業利益160億円の達成

自然に学び 自然を守る



クミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>